

(2) 松ヶ崎の今昔



ほうあんでん
▲奉安殿前



▲旧小学校前



▲現在の松ヶ崎小学校



▲おねったん



▲もちつき大会

(3) 桜島大正噴火の話 (大山福熊氏 談)

桜島大正噴火で、わが郷土は、未曾有の大災害に見舞われ、当時住民等はひとまず山手の奥地へ避難したようだが、桜島や燃島方面からも避難者が殺到し、海岸線は一時混乱した模様であった。

その中に黒神から避難してきた親子(母36歳、娘4歳)が、地元民の後について坂道を登った。背中の娘がしきりに水をせがむので母は、降りしきる降砂、降灰の中を谷川に下り水を求めた。

その後、夕闇の迫るなか行き先を見失い孤立してしまった。この風説を聞いた地元有志が危険を顧みず探索にあたったが、娘は既に絶命し、母も間もなく他界したという。

この痛ましい遭難の記録が桜島大正噴火誌(本県発行)に残されているが、この悲話を知る古老はおらず、また遭難の地を記す碑石なども見当たらない。このままではこの母子の悲しい史実は語り継がれることもなく、年とともに永久に風化していくことは必定であろう。

桜島爆発から100年の今日、あの悲惨極まりない大惨事を後世に残していくために石碑建立などの施策は必要ではなかろうか。



▲桜島大正噴火の様子